（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	キッズワールドサポートOcean１組

公表日　R7 年 5 月 29 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3	児童の人数に応じてスペースの状況に合わせ、出来る活動を検討して実施している。	年齢が上がるにつれて、体系も大きくなるので空間が狭く感じる。また、運動遊びは現在のOcean１組のスペースでは限界がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2	4	職員の急な休み時には他部署と連携を図り支援にあたっている。	児童の配置は適切だが、個別で対応するケース場面時に職員が足りないと感じる場面があった。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	段差も少なく、バリアフリーに化された環境になっている。また、児童の特性、対応に応じた個別設備受け設備されている。	バリアフリーになっているが、個室や、トイレへの入りロは狭く、車いすでは困難な場面があると想定される。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの連の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	児童が過ごす場所（フロア、個室、トイレ、車両等）を毎日、清掃、消毒を行い、心地よく過ごせるような環境を提供できるように実施している。	教材や備品の荷物が多く、片付けスペースが足りない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		児童の行動に関して意思を尊重し、寄り添った支援を提供できるように心がけています。	今後も児童の要望がある際や、必要ケース時には施場所作りを実施していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（計画設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的に子供たちの成長に伴い、支援の見直しを職員会議にて実施しています。	今後も、児童の成長に合わり、支援展開を行っていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者の意見を踏まえ、業務改善の話し合いを実施している。	評価表以外にも保護者の要望があれば都度話し合い、業務改善に努めています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	月に一度職員会議を実施して職員からの意見を集め、業務改善に努めている。	話し合いの頻度を多持つ様にしています。また、ブレーフィングを徹底的に行い、児童の支援がより良い形になる様に配慮していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	第三者を交えた外部評価を実施したことがない。	第三者委員会はあるが、評価結果を改善に向けての話し合いは実施できていないので、今後は取り組んでいきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内研修は定期的に実施している。また、研修の機会があれば積極的に参加する様にしている。	事業所内でも細かい支援展開が出来る様に研修や勉強会を実施していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		プログラムを職員間で共有しながら作成し、適切に公表できている。	職員間で話合い、プログラムを考案しているが、もっといい支援があれば都度検討行い、プログラムの改善に努めていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		個別支援計画書作成時に家庭からのアセスメント情報、事業所間で作成したアセスメントを基に児童の成長に合わせた計画書作成を実施している。	保護者との情報共有を図り行いながら計画書作成していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最高の利益を考慮した検討が行われているか。	5		モニタリング、個別支援会議を事業所内職員にて話し合い等行い、子供たちの成長に合わせた支援を提供出来る様に検討を実施している。	今後も情報共有を図りながら個別支援計画書を作成していきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	週時児童のケース会議や、モニタリング会議、尿室会議を実施して職員間で支援の共有を図っている。	情報共有は支援に対して必要なプロセスの為、今後も話し合いを行って行きます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	個別の支援計画にてケース内容や支援提供内容を記録をおい、職員間でブリーフィングを実施している。また、勝手、時に職員間で情報共有を実施を行い、児童の支援向上に努めている。	アセスメントの必要性を職員間で理解し、行動の分析を呼吸行っています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	個別支援計画書の中で、御家族のサポートが出来る様に計画書を作成し、地域支援、移行支援の内容を記載している。また、関り事や、情報共有が必要場面では個別に工夫図りながらサポートできる様に配慮している。	成長の過程で家族、地域、学校の連携が必要であれば、積極的に情報共有の徹底を実施していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で適時話し合いを行い、プログラムを実施している。	プログラムのマンネリ化にならないように安心、安全の児童の特性に合わせたプロラムを作成していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	児童の様々な支援に参加して頂けるように、複雑な様子のプログラムに関しての設定をしている。活動プログラムに関しては個別、集団共に必要な活動を毎日・毎週・週単位は原則実施されるように設定している。	今後も用に検討を重ねてより良い支援が提供できるように工夫していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	個別支援計画書を作成し支援を行っています。	個別の支援計画書に沿った支援や、集団での過ごし方等を適時話し合いながら計画書を作成行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		ブリーフィングを実施し、職員間での情報共有を徹底している。	今後も児童の情報共有を密に取り組んでいきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	業務後に時間があれば行っているが、余白の頃の中し送り時にブリーフィングを実施している。	緊急な話し合いが必要な際は早急に情報う共有する場面を作り対応して行きたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	2	個別支援に沿った支援内容の記録を支援終了後に行っている。	記録の際や、情報共有を大切にしながら実施していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		児童の成長や特性に合わせてモニタリングを実施しています。	長いくても半年に１度の更新の為、モニタリングを実施しています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を最適組み合わせて支援を行っているか。	2	1	自立に向けた取組、創作活動、余剰時間は適時支援を行えている。	地域に出る為の活動は回数が少ない為、今後実施していく回数を増やして行きたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を行う力を育てるための支援を行っているか。	6		支援の中で本児の意思を尊重し、選択肢の決定を促している。	選択肢の中で、自主性、社会性が身につくような支援が提供できるように配慮していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		相談会議事業所へ定期的に児童の会議を開催していく。保育、学校、相談者との情報共有を実施している。また、勝手に、相談窓口の設置の様子を定期的に確認しながら情報収集として会議にかんがいしています。	利用されている児童特性や関わり方、家族の状況のもっと理解できるように深く関われるように支援を行っていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整っているか。	1	4	学校、保育、障害福祉員とは連携を図る事は出	主治医や、保育所とは連携が薄いので、今後取り組みを強化していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	学校との年間予定、行事、送迎等は連携がとれている。	トラブルや事故時のお互の学校との話し合いの場を作る事が難しい。連絡マナー活動が少なく場、年間の対応が出来ていない。トラブイングのプロジェクトを実施しながら、連携を強化していきたい。
	29	就学に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	現在は、保育園から小学校への進学はいないので、実際は行っていない。必要な場面があれば実施していく。	進学になる児童がいれば情報共有が必要な場合は話し合いの場を設け会議を実施していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3	放デイから障がい者福祉サービスへ移行する児童がいない為、実施できていない。	今後卒業見込みの児童がいれば、連携をしながら地域移行の支援を行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	スーパーバイズとは提携されていないが、地域主催の研修は参加している。	スーパーバイズの助言がほしい時に何回に種話していいかが分からず、助言が無い状態の支援になりとても困った。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	放課後等デイサービス、児童発達支援、とは交流はなかったが、地域の学童とは森図だがイベントの参加にて交流があった。	今後は情報が得られるように地域の活動の様子を確認しながら、交流を図っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3	ケースが発生した際は参加行っているが、定期的には実施できていない。	機会があれば積極的に参加していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		保護者へ引継ぎが、ケース会議時に事業所での様子や支援について共通理解が出来る様に話し合い等行っています。	保護者から聞り事や、支援についての問い合わせがあれば都度話し合いを実施しています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	ペアトレの情報は地域の研修があれば、定期的に参加しています。	家族に対しての研修を行い、一緒に成長していける取組が必要だと思うので、今後検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明等を行っています。また、見学や体験時にも支援プログラムやスケガな運営規定について説明させていただいています。	説明時に分かりやすいように伝える配慮を行っていますが、もっと伝わりやすく配慮が出来る様に時間をさいて頂きます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最高の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		児童や保護者の意向は第一に配慮すべきものだと考えています。作成する前に意向を確認する為、アセスメントの成考行い、原案を作成して非を得ると非常大事に考えています。	家族、利用児童の最良が何かを考えながら今後も作成しています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画書を作成時に保護者へ確認を行い、同意を得るようにしています。	保護者へ説明時に計画書に納得が得られない場合や、不満があれば早急に改善に勤め、より良い計画書が作成できるように努めていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からとがった話の事や悩みに関しては、職員間で共有し、話し合いを実施し、面談等の話し合い場を設けている。また、必要なら面談でのアドバイスを実施しています。	今後も継続的に保護者へのサポートを実施していきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2	前年度は年に２回の開催だった。回数は少なく感じます。楽しい保護者会を目標に今年度も実施していきたい。	保護者会の開催では地域に貢献できるような取り組みの話が、研修テーマ育ての学ぶ場合などを取り入れていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		クレームがあれば早急な対応と事業所内での改善に向けた取組等保護者へ周知して頂けるように実施しています。	保護者の要望や、改善案などあれば都度検討行い、迅速に対応行っています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		連絡帳アプリにて情報の発信を行っている事です。	ホームページやSNS（インスタグラム）等を活用して情報の発信が出来る様に取り組んでいきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取り扱いの同意を得た上で、厳重に個人情報の取り扱いに留意しています。職員間でも情報漏洩にならないように細心意を空ない。徹底しています。	今後も、児童の個人情報の取り扱いには気をつけていきたいと思います。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		筆力ード、意思カードを使い児童へは意思疎通の為、配慮を行っています。また、保護者へ分かりやすく伝えられるように配慮を行っています。	今後も意思疎通の際の配慮を行っていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	事業所内での行事には地域住民を招待する場面は少なかった。	ハロウィン、ビーチクリーン以外の活動を今後も模索しながら地域に活動範囲を広げていきたい。
非常時等の対応	46	感染防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、熱射マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルはあるが、周知する機会が少なく感じる。	定期的にマニュアルを周知で各を取り組みを行っていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	BC用計画を基に避難訓練を実施している。	定期的に実施する為に職員間で周知する機会を設け、訓練を行っていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認していたか。	4		服薬や、てんかん発作等を要する児童がいれば、事前に話し合いを実施しています。	現在は定期薬や発作がある児童はいない為、話し合いではなく、勉強会として学ぶ場を作って行きます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		該当児童がいれば、実施しています。	現在は該当児童がいない為、アレルギー症状のある児童と契約になった際には、医師の指示書を基に対応を検討していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分されたなかで支援が行われているか。	4	1	定期的に安全対策委員会を開催し、事業所内、戸外活動場所等の児童の安全が確保されているか確認を行っています。	災害時の安全確保のための訓練を実施していきます。また、施設内外の安全の見直しも定期的に実施していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく防犯内容について、家族等へ周知しているか。	5		災害時の安全確保を保護者へは保護者会を通して周知する機会を提供しています。	周知する機会が少ないので、定期的に実施できるようにしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットのケースが発生した際は記録を作成し、職員間で改善策を話し合っています。	再発防止の取り組みと職員間の周知連携を図っていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に虐待防止委員会を軸に研修を開催しています。	今後も虐待防止の取り組みを実施していきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	3	保護者へは身体拘束の説明を行い、同意を得ていますが、計画書への記載はまだ不十分だと思います。	計画書の見直しと理解を改善できるように努力していきます。